



平成25年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月12日

上場会社名 株式会社東急レクリエーション
 コード番号 9631 URL <http://www.tokyu-rec.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐藤 仁

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長

(氏名) 堀江 真二郎

TEL 03-3462-8870

四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日

配当支払開始予定日

平成25年9月20日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第2四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第2四半期	13,839	△0.4	334	100.8	272	113.7	263	116.5
24年12月期第2四半期	13,901	8.1	166	—	127	—	121	—

(注) 包括利益 25年12月期第2四半期 795百万円 (406.4%) 24年12月期第2四半期 157百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第2四半期	8.97	—
24年12月期第2四半期	4.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第2四半期	42,053		20,536			48.8
24年12月期	43,067		19,840			46.1

(参考) 自己資本 25年12月期第2四半期 20,536百万円 24年12月期 19,840百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	3.00	—	3.00	6.00
25年12月期	—	3.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,876	△1.6	719	△27.6	576	△33.6	307	75.2	10.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期2Q	31,937,474 株	24年12月期	31,937,474 株
25年12月期2Q	2,593,869 株	24年12月期	2,574,312 株
25年12月期2Q	29,356,131 株	24年12月期2Q	29,366,968 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策や金融政策の効果が表れ、企業収益が改善するなど景気は着実に持ち直しているものの、世界経済の下振れ懸念が依然として残るなど、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、主幹事業である映像事業、スポーツ・レジャー事業、不動産事業の各事業において、積極的な営業活動を行うとともに、徹底したコスト管理を実施し、収益構造の改善に全社を挙げて取り組み、強固な経営基盤の構築をはかってまいりました。

この結果、売上高は13,839百万円(前年同期比0.4%減)、営業利益は334百万円(前年同期比100.8%増)、経常利益は272百万円(前年同期比113.7%増)となり、四半期純利益は263百万円(前年同期比116.5%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 映像事業

映画興行事業におきましては、各シネマコンプレックスのニーズに合わせた番組編成を行うとともに、映画入場収入以外の付帯収入の獲得に努め、効率的な運営と徹底したコスト管理による収益力向上をはかってまいりました。

上映作品といたしまして、邦画では「プラチナデータ」「ドラえもん のび太のひみつ道具博物館(ミュージアム)」「名探偵コナン 絶海の探偵(プライベート・アイ)」、洋画では「レ・ミゼラブル」「シュガー・ラッシュ」をはじめ、「ライフ・オブ・パイ/トラと漂流した227日(IMAX®3D版)」「ダイ・ハード ラスト・デイ(IMAX®版)」「ドラゴンボールZ 神と神(IMAX®版)」「アイアンマン3(IMAX®3D版)」などを上映し、好評を博しました。

この結果、売上高は6,410百万円(前年同期比0.1%減)となり、営業利益は10百万円(前年同期は70百万円の営業損失)となりました。

② スポーツ・レジャー事業

ボウリング・フットサルの両事業におきましては、3月に開業した「スポーツコミュニティー市川浦安」(千葉県市川市)を含めた各事業所において、快適な施設の運営に努めるとともに、地域特性を活かした販促活動を強化し、顧客満足度の一層の向上をはかってまいりました。

コンビニエンス事業におきましては、都心に展開する各店舗において、プライベートブランド商品、季節型商材の積極的な販促並びに効率的な店舗運営に努め、収益の拡大をはかってまいりました。新規開発物件といたしましては、5月に「ファミリーマート赤羽一丁目店」(北区赤羽)を開業いたしました。

飲食事業におきましては、「食彩健美 野の葡萄」「モスバーガー」の各店舗にて充実したメニューを揃えるとともに、きめ細やかなサービスや施設のクレンリネスの徹底などを心掛け、清潔で快適な店舗運営を推進してまいりました。

この結果、売上高は2,591百万円(前年同期比2.3%増)となりましたが、営業利益は23百万円(前年同期比56.9%減)となりました。

③ 不動産事業

不動産事業におきましては、当社直営ビル及びマスターリースビルの双方において、テナント企業からの賃料見直しや退去及び近隣ビル間のテナント誘致競争の激化により賃料は下落傾向となるなど、引き続き大変厳しい事業環境となりましたが、新たなテナント獲得に努め、安定収益の確保をはかってまいりました。新規開発物件といたしましては、3月に稼働いたしました「三郷中央駅前ビル」(埼玉県三郷市)に続き、5月には「宇田川町TRビル」(渋谷区宇田川町)を竣工し、優良なテナントの誘致を行い、当社直営ビルとして新たに稼働いたしました。

ホテル事業におきましては、業界全体で客室単価の値下げによる低価格競争が依然として続く厳しい事業環境のもと、宿泊主体型の「ホテル東急ビズフォート広島」(広島市中区)並びに「熊本東急イン」(熊本市中央区)において、インターネットを利用した宣伝活動や満足度の高い宿泊パック等を提供するなど、顧客の獲得をはかり、客室単価及び稼働率維持に努めてまいりました。

この結果、売上高は4,217百万円(前年同期比1.1%増)となり、管理運営コストの削減等をはかり、効率的なビル運営に努めたことにより、営業利益は762百万円(前年同期比24.2%増)となりました。

④ その他

ビル管理事業におきましては、オフィスビルを中心にビルメンテナンス・安全管理における高いニーズに応えるとともに、クオリティーの高い技術力とサービスの提供に努めてまいりました。

アミューズメント事業におきましては、ゲームセンター「G-R E C' S」での快適な店舗の運営に努めてまいりました。

ランキン事業におきましては、3月に出店した「ランキンランキン北千住店」(足立区千住旭町)を含めた直営3店舗において、ブランドの価値向上をはかりながら、話題の商品・情報を提供していくとともに、収益力の強化に努めてまいりました。

しかしながら、「G-R E C' S神田店」「ランキンランキン渋谷店」が閉鎖したことから、売上高は619百万円(前年同期比20.7%減)となり、営業利益は10百万円(前年同期比72.2%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産、負債、純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,014百万円減少し、42,053百万円となりました。これは主に投資有価証券が835百万円増加し、現金及び預金が262百万円、受取手形及び売掛金が1,334百万円、繰延税金資産が255百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,711百万円減少し、21,516百万円となりました。これは主に買掛金が1,104百万円、借入金が210百万円、未払法人税等が199百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ696百万円増加し、20,536百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が532百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高が当初の連結業績予想に比べ、若干減少したものの、営業利益、経常利益、四半期純利益においては、それぞれ上回ることができました。

しかしながら、通期の連結業績予想につきましては、市況並びに需要動向の影響に負うところもあるため、平成25年2月14日に公表いたしました業績予想を据え置くことといたします。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	972,306	709,874
受取手形及び売掛金	2,101,437	767,223
商品	183,124	165,213
貯蔵品	63,914	74,466
繰延税金資産	91,427	59,815
その他	3,336,778	3,330,294
貸倒引当金	△1,532	△500
流動資産合計	6,747,457	5,106,388
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,556,462	9,226,261
土地	9,793,011	10,120,812
その他(純額)	1,601,541	1,489,794
有形固定資産合計	20,951,015	20,836,868
無形固定資産		
投資その他の資産	1,047,556	1,109,071
投資有価証券	2,871,541	3,707,053
差入保証金	9,342,931	9,454,926
繰延税金資産	407,502	183,277
その他	1,699,987	1,656,243
貸倒引当金	—	△620
投資その他の資産合計	14,321,962	15,000,879
固定資産合計	36,320,534	36,946,819
資産合計	43,067,991	42,053,207

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,739,898	1,635,076
短期借入金	1,500,000	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	620,606	620,712
未払法人税等	274,866	75,362
引当金	57,649	31,480
その他	2,399,114	2,294,780
流動負債合計	7,592,135	6,257,411
固定負債		
長期借入金	1,675,564	1,365,181
再評価に係る繰延税金負債	2,581,782	2,581,782
退職給付引当金	288,236	306,321
資産除去債務	1,363,149	1,326,959
受入保証金	6,931,754	7,000,122
その他	2,795,294	2,678,465
固定負債合計	15,635,781	15,258,833
負債合計	23,227,916	21,516,245
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,028,813	7,028,813
資本剰余金	7,061,184	7,061,207
利益剰余金	2,587,475	2,762,576
自己株式	△1,381,488	△1,392,472
株主資本合計	15,295,985	15,460,124
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	135,220	667,967
土地再評価差額金	4,408,869	4,408,869
その他の包括利益累計額合計	4,544,089	5,076,837
純資産合計	19,840,075	20,536,961
負債純資産合計	43,067,991	42,053,207

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	13,901,442	13,839,659
売上原価	13,265,089	13,016,574
売上総利益	636,352	823,085
販売費及び一般管理費	469,835	488,754
営業利益	166,517	334,331
営業外収益		
受取利息	13,422	11,424
受取配当金	21,581	27,685
補助金収入	23,329	—
償却債権取立益	9,347	4,032
その他	10,179	3,023
営業外収益合計	77,860	46,166
営業外費用		
支払利息	104,288	89,794
持分法による投資損失	9,539	5,971
その他	3,285	12,711
営業外費用合計	117,113	108,477
経常利益	127,264	272,020
特別利益		
固定資産売却益	1,180	8,252
投資有価証券売却益	69,999	—
退店補償金収入	54,518	—
特別利益合計	125,698	8,252
特別損失		
固定資産売却損	1,123	114
固定資産除却損	2,595	1,362
減損損失	4,937	824
店舗閉鎖損失	9,750	—
支払補償金	41,000	—
特別損失合計	59,407	2,302
税金等調整前四半期純利益	193,554	277,970
法人税等	72,002	14,780
少数株主損益調整前四半期純利益	121,552	263,190
四半期純利益	121,552	263,190

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	121,552	263,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35,614	532,747
その他の包括利益合計	35,614	532,747
四半期包括利益	157,167	795,937
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	157,167	795,937
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映像事業	スポーツ・ レジャー事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,415,749	2,533,158	4,170,739	13,119,647	781,794	13,901,442	—	13,901,442
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	28,335	28,335	450,401	478,737	△478,737	—
計	6,415,749	2,533,158	4,199,075	13,147,983	1,232,195	14,380,179	△478,737	13,901,442
セグメント利益 又は損失(△)	△70,742	55,254	613,618	598,130	38,507	636,638	△470,120	166,517

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△470,120千円には、セグメント間取引消去△165千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△469,955千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映像事業	スポーツ・ レジャー事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,410,058	2,591,802	4,217,856	13,219,717	619,942	13,839,659	—	13,839,659
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	26,609	26,609	437,912	464,521	△464,521	—
計	6,410,058	2,591,802	4,244,465	13,246,326	1,057,854	14,304,181	△464,521	13,839,659
セグメント利益	10,681	23,830	762,195	796,707	10,701	807,408	△473,077	334,331

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△473,077千円には、セグメント間取引消去△285千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△472,791千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。